

# 障害者グループホーム等第三者評価

## 「評価（調査）報告書」

事業所名      ハーバー野毛

社団法人神奈川県社会福祉士会

福祉サービス第三者評価事業部

第三者評価結果報告書（総括）

総 括	
対象事業所名	特定非営利活動法人神奈川県生活サポート ハーバー野毛
対象サービス	障害者グループホーム
事業所所在地	横浜市
設立年月日	平成18年12月1日
評価実施期間	平成24年8月～平成25年3月
公表年月日	平成25年3月
評価機関名	社団法人神奈川県社会福祉士会

総合評価（ホームの概要と理念や方針、支援にあたって努力・工夫している点など）

<ホームの概要>

- ①特定非営利活動法人神奈川県生活サポートが運営する最初の障害者グループホームで、「支援を必要としている方に自立をトータルにサポートする」を方針とした全国で初めての路上生活者に対応した障害者グループホームである。
- ②桜木町駅より5分、繁華街の中にある鉄筋コンクリート3階建住居に、男性利用者7名、女性利用者2名の計9名が生活をしている。日中は全員が、特例子会社や作業所、生活介護事業所に通っている。
- ③利用者の年齢は24歳～65歳で、精神障害者保健福祉手帳所持者が8名、その内、療育手帳を併せ持っている利用者が3名、それ以外に療育手帳のみ所持している者が1名いる。また、9名中8名が生活保護受給者である。
- ④職員体制は、障害者グループホーム「ハーバー横浜」に属する当ホームと「ハーバー鶴見」、それ以外に自立支援施設「ハーバー宮前」、障がい者ケアホーム「ハーバー泉」（熱海市）の4事業所を兼務する管理者1名、当ホーム専任のサービス管理責任者兼施設長1名及び世話人8名を配置している。

<ホームの支援の特徴、努力・工夫している点など>

- ①4名を除いて利用者全員がかつて路上生活者であり、また知的障害などを併せ持っている為、生活歴や利用者の家族背景などの情報が極めて限られている。その方の生活習慣や特性が、生活歴によるのか障害によるのか、また精神疾患など病気が影響しているのか等、探りながら自立に向けた支援を根気強く行なっている。
- ②職員の資質向上のために外部講師をお願いするなど研修に力を入れている。年間研修計画を作成し全職員（4グループホーム常勤職員）とグループホーム職員（ハーバー野毛及びハーバー鶴見常勤及び世話人である非常勤職員）研修を交互に毎月行っている。特に世話人への研修は、研修受講手当を支給し全員参加で行われている。
- ③マニュアル類、就業規則等を整備し研修や実践に役立てている。

評価領域ごとの特記事項

1. 人権の尊重	<ol style="list-style-type: none"> <li>①「グループホーム運営方針」に利用者の意思及び人権尊重などが明記されている。また、マニュアル「人権（障害者の人権を守り、虐待防止のため）」を整備し、職員にわかりやすく説明している。</li> <li>②研修予定表により年間通じて研修テーマを決め、偶数月はハーバー野毛含めた4施設の職員20名全員、奇数月はハーバー野毛とハーバー鶴見のグループホーム職員（世話人を含む）13名を対象に、毎月職員研修及び職員会議を開催している。研修テーマは、外部講師による「人権とは（障害者の人権）」など、人権の視点が捉えられている。</li> </ol>
----------	--

	<p>③言語による会話が困難な利用者はいない。他方、精神疾患を併せ持つ利用者があるので、「精神障害者の症状と支援」などをテーマに研修を積み、利用者理解を深めると同時に支援の工夫に努めている。</p>
2. 意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供	<p>①定期的に利用者全員と施設長による利用者ミーティングを実施している。また、食事の時など利用者皆が集まった時に色々な事が話題になるなど、日常的に利用者の意見を聞くよう心がけている。そこで話題になった清掃や整理整頓などは、個別支援計画や日常生活支援に反映させている。</p> <p>②洗濯機は2階と3階に各1台、計2台設置され、洗濯は全員が自分で行うが、見守りや使い方の助言など支援を行なっている。世話人が食事の調理に使っているIH調理器が台所にあるが、利用者が使う事はまだ無い。調理したものを利用者と一緒に盛りつけるなどの場面はある。</p> <p>③睡眠導入剤を用いている利用者など生活のリズムが異なる人同士のトラブルや相談がある。常に、利用者の思いを受け止めるよう努力している。</p>
3. サービスマネジメントシステムの確立	<p>①預り金等規程を整備し、ギャンブルやアルコール等の依存傾向、浪費癖のある利用者6名に対して金銭管理を複数の職員で担当し実施している。お金の使い方、貯蓄の大切さ等をその都度伝え一緒に小遣い帳を記述するなど支援している。</p> <p>②他社会福祉法人の施設長に第三者委員をお願いしている。また、相談窓口として、管理者・施設長兼サービス管理責任者が選任されており、苦情解決対応マニュアルに明記されている。食堂の壁に「苦情申し立てから解決までの手順」を掲示し周知を図っている。</p> <p>③24時間職員が勤務し対応している。災害時の避難訓練を年2回、更に津波を想定した避難訓練を年1回実施している。火災通報装置、119火災通報専用電話機を設置している。</p> <p>④精神科内科の医師にアドバイザー的な役割をお願いし、また医療機関には常に連絡し、日常生活、仕事のことについてアドバイスを受けている。また、必要に応じて職員が受診に同行するなど相談している。</p>
4. 地域との交流・連携	<p>①利用者が近隣の耳鼻科、歯科、美容院などを利用する際、職員も同行して地域との関係づくりに努めている。地域の方々にホームは周知されており、利用者の動向等について情報を提供してくれることが多々ある。</p> <p>②中区自立支援協議会に加入し、管理者が部会長を担っている。今後も横の繋がりを強化していく事の必要性を感じている。</p> <p>③ホームの周辺は飲食店街で、自治会は商店会との色彩もあり、自治会との関係づくりは難しく自治会例会への出席はできていない。今後は、災害時等を想定して自治会との連携を図っていきたい。</p>
5. 運営上の透明性の確保と継続性	<p>①ホームの運営方針、職員の行動指針を策定している。また、ホームの重要事項説明書をリビング入口壁面に掲げ、利用者に口頭でも説明している。また、リビング内の掲示板に利用者・職員への伝達事項やその日の所在を、マグネット等を利用し、分かりやすく提示している。</p> <p>②偶数月に4施設の全職員の研修日を設け、サービスの内容や方針を周知徹底し理解を深めている。また、「精神障害と支援」等テーマを決め、外部講師を招き学習している。奇数月には、グループホーム職員の研修日を設け、必要な支援について理解を深めている。勤務日でない非常勤職員も全員参加している。</p> <p>③年度末に1年を振り返り、自己点検評価と人権チェックをしている。自己</p>

	<p>点検評価を行う事で、自己決定・利用者の主体性を尊重したサービスの提供に努めている。</p>
6. 職員の資質向上の促進	<p>①偶数月はハーバー野毛を含めた4施設の職員全員、奇数月はグループホーム職員を対象に、年間を通じた研修テーマを設定し、毎月職員研修及び職員会議を開催している。特に全職員を対象にした研修は、「人権とは（障害者の人権）」「精神障害の症状と支援」など、外部講師による研修を実施している。</p> <p>②世話人業務マニュアルを整備し、新人研修プログラム及び研修読本と共に、「世話人研修マニュアル」として配布している。</p>
7. 日常生活支援	<p>①毎朝、体温・血圧・脈拍・体重・健康状態のメディカルチェックを実施し記録している。異常があれば施設長が再度確認し、必要があれば利用者の掛り付け医に相談し受診する等している。通院に同行する場合もある。また、メディカルチェック時以外にも、利用者の体調の変化に気をつけ都度確認している。利用者が遠慮なく話せる雰囲気を作るように努力している。</p> <p>②日中の活動先は、デイサービス1名、特例子会社就労1名、就労継続B型施設7名となっている。自由時間は、できるだけ利用者個々の希望に沿って支援をし、ボランティアによる囲碁、新横浜ラポールでのフットサル、絵画の得意な人が描いたカットの法人パンフレットへの利用、散歩やDVD鑑賞、買い物同行等、趣味や技能を活かせるように配慮している。</p> <p>③ホームでの生活に関し、年間テーマを決めて利用者及び職員で努めている。昨年は「きれいに暮らそう」と決め、風呂場の入口に「お風呂に入ろう、からだのあらい方」を貼り、重点的に洗う身体の部位を絵で示すなど身体の清潔、居室の片づけ、清掃等に皆で努めた。今年度のテーマは「なかよく暮らそう」として声掛けしている。</p> <p>④食事は、食材の宅配業者を利用し、その標準献立で対応している。利用者と一緒に献立を作るなどはしていない。しかし、利用者によっては食べられない物があったり、また利用者が好まない調理だったりする場合もあるので、その際は臨機応変に工夫している。</p>

評価結果報告書（詳細）

評価対象領域 1. 人権の尊重

項目	ホームが努力、工夫している取り組みについて確認したこと	ホームが課題にしていること及びその改善に向けたホームとしての取り組みについて確認したこと
<p><u>利用者の人格を尊重した関わり方、プライバシーの保護</u>について                      （対応項目：「自己評価・第三者評価項目」1-(1)(2)）</p>	<p>①偶数月はハーバー野毛含めた4施設の職員 20 名全員、奇数月はハーバー野毛及びハーバー鶴見からなる障害者グループホーム事業所ハーバー横浜の非常勤（世話人）を含む職員 13 名を対象に、毎月職員研修及び職員会議を開催している。研修予定表により年間通じて研修テーマが決まっており、「障害者の人権」など人権の視点から利用者を支援するよう研修を積んでいる。</p> <p>②利用者の意思及び人権尊重などを明文化したグループホーム運営方針やマニュアル「人権（障害者の人権を守り、虐待防止のため）」を整備するなど、職員にわかりやすく作成し説明している。</p>	<p>①継父からの虐待を受けていた利用者に関し、継父が本人の障害年金をあてにして役所に本人の居所をしつこく問い合わせるなどの行為がある。その為、問合せ窓口をホームの管理者に1本化し、居所の有無等について答えられないなどの工夫をしているが、世話人を含めた対応の徹底が課題である。</p>
<p>※その他、<u>利用者とのコミュニケーションや制度の利用支援</u>など、人権の尊重に関する取り組みについての特記事項                      （対応項目：「自己評価・第三者評価項目」1-(3)(4)(5)）</p>	<p>①現在は、言語による会話が困難な利用者はいない。</p> <p>②成年後見制度や日常生活自立支援事業など制度利用について、その利用支援をしている利用者はいない。</p>	<p>①精神疾患を併せ持ち幻聴がある利用者への対応など、未だ十分に習熟していない職員がいる。外部医療機関の精神科医師を外部講師にお願いして職員研修を持つなど、病気や障害の理解を深める工夫をしている。</p> <p>②利用者の要求にただ応えるのではなく、その方の可能性を引き出す支援など、支援に対する姿勢がぶれないようにするのが課題である。支援のあり方を捉えた種々の研修を行い、同一の視点で対応ができるように努めている。</p>

評価対象領域 2. 意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供

項目	ホームが努力、工夫している取り組みについて確認したこと	ホームが課題にしていること及びその改善に向けたホームとしての取り組みについて確認したこと
<p>利用者の希望や意見のホーム運営への反映、個別支援計画の策定について                      (対応項目:「自己評価・第三者評価項目」2-(6)(7))</p>	<p>①定期的(2ヵ月に1回)に利用者全員と施設長による利用者ミーティングを実施している。清潔保持や居室替えなどについて話し合っている。                      ②利用者ミーティングの機会を捉えなくても、食事の時など利用者皆が集まったときに色々な事が話題になり、日常的に利用者の意見を聞くよう心がけている。                      ③利用者ミーティングで話題になった事では、清掃や整理整頓などについて個別支援計画や日常生活支援に反映させている。</p>	<p>①サービス管理責任者が作成する個別支援計画の様式作りが課題だったが、2012年9月に様式を定め使い始めている。</p>
<p>※その他、自立支援や相談支援など、意向の尊重と自立生活支援に関する取り組みについての特記事項                      (対応項目:「自己評価・第三者評価項目」2-(8)(9))</p>	<p>①洗濯機は2階と3階に各1台、計2台設置され、洗濯は全員が自分で行うが、見守りや使い方の助言など支援を行なっている。                      ②台所に世話人が食事の調理に使っているIH調理器がある。利用者がそれを使って調理するような事はまだできていない。調理したものを利用者と一緒に盛りつけるなどの場面はある。</p>	<p>①睡眠導入剤を用いている利用者など生活のリズムが異なる人同士の間で、隣室の音への苦情などのトラブルや相談がある。常に、利用者の思いを受け止めるよう努力している。</p>

評価対象領域 3. サービスマネジメントシステムの確立

項目	ホームが努力、工夫している取り組みについて確認したこと	ホームが課題にしていること及びその改善に向けたホームとしての取り組みについて確認したこと
<p>金銭管理、不満や苦情の解決、事故・急病や災害等の緊急時の対応準備について                      (対応項目：「自己評価・第三者評価項目」3-(11)(12)(13)(14))</p>	<p>(金銭管理)</p> <p>①預り金等規程を整備し、それに基づいて、ギャンブルやアルコール等の依存傾向、浪費癖のある利用者6名に対して、複数の職員で金銭管理を担当し実施している。</p> <p>②小遣い帳をつけることを促している。保護者に毎月報告している利用者が1名いる。</p> <p>③利用者のお金は法人本部の金庫で保管している。施設長管理の預り金で利用者の必要費用、小遣い等を立て替え、本部に清算書を提出し、本部よりホームへ渡すシステムになっている。</p> <p>④就労継続支援 B 型施設「キッチン・たいむ」で働いている利用者3名は、自分で1週間分の小遣いを「キッチン・たいむ」の帰りに近くにある法人本部に寄って受け取り使っている。</p>	<p>①「現状の金銭管理はしかたないが、いずれは自分のお金を自分で自由に使いたい」と考えている利用者は少ない。生活歴などから、それらの利用者に対してお金の使い方、貯蓄の大切さ等をその都度伝えていくのは大変ではある。毎回小遣い帳を確認し、一緒に記述するなど根気よく丁寧に説明しながら支援を継続するのが課題である。</p>
	<p>(苦情解決)</p> <p>①バックアップ施設である社会福祉法人聖坂学園オリーブ工房の施設長に、第三者委員をお願いしている。今まで第三者委員に苦情が寄せられた事は無い。第三者委員には、職員研修の外部講師も年1回人権をテーマをお願いしており、ホームの状況を理解している。</p> <p>②相談窓口として、管理者・施設長兼サービス管理責任者が選任されており、その事は苦情解決対応マニュアルに明記されている。また、食堂の壁に「苦情申し立てから解決までの手順」のポスターを掲示し利用者に周知している。</p>	
	<p>(緊急時対応)</p> <p>①24時間職員を配置し対応している。夜間緊急時は、宿直職員から</p>	<p>①外出先等で事故にあった時を想定して、緊急用カードを9月に作成し、利用者に携帯してもらって</p>

	<p>管理者に連絡、救急車手配との手順になっている。各利用者が利用している夫々の医療機関と、連携について特に取り決めは交わしていない。緊急時に備え、利用者毎の受診先医療機関を一覧表にまとめ電話脇に掲示している。</p> <p>②災害時の避難訓練を年2回、更に津波を想定した避難訓練を1回実施している。火災通報装置、119火災通報専用電話機を設置している。</p> <p>③問題が起きた時には、すみやかに職員会議、施設長会議を開催し、問題把握と原因究明、個別対策を立て全職員に伝えている。</p> <p>④週末、食事時間前後が事故のおきやすい時間帯であることから、特にその時間帯は注意するようしている。喉に詰まる傾向のある利用者には、医師から食事形態のアドバイスを受けて対応している。</p> <p>⑤近隣に在住している職員など、すぐに職員がかけつけられるよう体制を組んでいる。</p>	<p>る。</p> <p>②生活歴等不明の利用者もあり、症状だけでは対応が判断できない場合が多い。精神科と内科を兼ねる医師にアドバイザーを依頼、また職員研修で精神障害者の症状と支援などをテーマに年間複数回研修を持つなど、精神疾患等専門知識を高める取り組みを開始した。</p> <p>③緊急時のための食料品・飲料水・医薬品・日用品等はまだ十分備えられていない。個人負担となるが、災害時の利用者個々の緊急避難袋を、11月までに準備したいと検討している。</p>
<p>※その他、<u>生活環境整備</u>や<u>緊急時の地域との協力関係</u>や<u>バックアップ体制整備</u>など、<u>サービスマネジメント</u>に関する取り組みについての特記事項  (対応項目：「自己評価・第三者評価項目」3-(10)(15)(16))</p>	<p>①医療機関には常に連絡し、例えば精神疾患を持つ利用者の日常生活、仕事についてアドバイスを受けるなどしている。また、必要に応じて職員が受診に同行するなど相談している。</p> <p>②精神科内科の医師にアドバイザー的な役割をお願いしている。</p>	<p>①生活保護受給者が受診できる医療機関を近隣で見つけることが難しい。</p>



評価対象領域 4. 地域との交流・連携

項目	ホームが努力、工夫している取り組みについて確認したこと	ホームが課題にしていること及びその改善に向けたホームとしての取り組みについて確認したこと
<p>地域との関係づくり、連携について                      (対応項目:「自己評価・第三者評価項目」4-(17))</p>	<p>①近くの耳鼻科、歯科、美容院などを利用しており、職員も同行して地域との関係づくりに努めている。野毛地域の中では、ホームは周知されており、利用者の動向等について情報を提供してくれることが多々ある。</p> <p>②中区自立支援協議会に加入し、管理者が部会長を担っている。今後も横の繋がりや連携を強化していく予定である。</p> <p>③花咲自治会にホームとして加入し会費を納めている。</p>	<p>①ホームの周辺は飲食店街で、自治会との関係づくりは難しい。自治会例会への出席はできておらず、会長との面識もない。自治会は商店会との色彩もあり、関係づくりの為に再々挨拶に行っているが未だ自治会長には会えていない。災害時など自治会との連携は大切であり、引き続き密な連携の構築を図っていきたい。</p> <p>②ハローワークを通して世話人の募集を行ない、地域の人達が応募してきた。今後も地域の人達との関係づくりを図りたい。</p>

評価対象領域 5. 運営の透明性の確保と継続性

項目	ホームが努力、工夫している取り組みについて確認したこと	ホームが課題にしていること及びその改善に向けたホームとしての取り組みについて確認したこと
<p>ホームにおけるサービス提供の考え方や内容の周知、運営に関する法令の遵守について</p> <p>(対応項目:「自己評価・第三者評価項目」5-(19)(20))</p>	<p>①ホームの運営方針、職員の行動指針を策定している。また、ホームの重要事項説明書をリビング入口壁面に掲げ、利用者に口頭でも説明している。</p> <p>②リビング内の掲示板に利用者・職員への伝達事項やその日の所在を、マグネット等を利用し、分かりやすく提示している。</p> <p>③偶数月に4施設の全職員の研修日を設け、サービスの内容や方針を周知徹底し理解を深めている。また、精神障害と支援等テーマを決め、外部講師を招き学習している。</p> <p>④奇数月には、非常勤を含むグループホーム職員の研修日を設け、必要な支援について理解を深めている。勤務日でない非常勤職員も全員参加している。</p> <p>⑤サービス内容は個別支援計画に基づき、利用者個人の主体性を尊重したものを作成している。本人がどうしたいかという意思を可能な限り尊重して支援している。</p>	
<p>※その他、<u>運営理念や方針の周知、意思決定の仕組み、自己評価の実施</u>など、運営の透明性と継続性の確保に関する取り組みについての特記事項</p> <p>(対応項目:「自己評価・第三者評価項目」5-(18)(21)(22))</p>	<p>①毎月常勤理事会、施設長会議で法人のめざすセーフティネット事業の現況や各利用者の状況、課題を共有している。</p> <p>②毎月の職員会議で理事会、施設長会議の報告を行い、職員が情報を共有している。法人の運営理念や方針は、年度初めの研修テーマとなっているが、毎月繰り返し周知徹底している。</p> <p>③年度初めに障害者の人権について研修し、年度末には1年を振り返り、自己点検評価と人権チェックをしている。自己点検評価は、法人独自に作った支援プログラムに沿っているが、その中に第三</p>	<p>①人権など職員に研修の都度、周知徹底しているが、より深く理解するところまで行っていない面もあり、さらに繰り返し研修を積んでいきたいと考えている。例えば、利用者に対する呼称について、「さん付け」がようやく理解されてきたが、以前は理解していても世話人によっては実践に繋がらないということがあった。</p> <p>②法人は将来、特定非営利活動法人から社会福祉法人化をめざしている。設立要件を満たせるよう、また福祉の面に通じる職員を育て、ホームの発展、法人の発展に繋がりたいと考えている。</p>

	<p>者評価の項目も抜き出して入れている。自己評価の実施を通じて、自己決定・利用者の主体性を尊重したサービスの提供に努めている。</p> <p>④今年度から法人独自の項目で自己点検評価を行う予定である。</p>	
--	---	--

評価対象領域 6. 職員の資質向上の促進

項目	ホームが努力、工夫している取り組みについて確認したこと	ホームが課題にしていること及びその改善に向けたホームとしての取り組みについて確認したこと
<p>職員の勤務条件や職務内容の適正化、資質向上のための研修体制の整備について (対応項目：「自己評価・第三者評価項目」6-(23)(24))</p>	<p>①就業規則・雇用契約等は改定する都度、全職員に配付している。                  ②世話人業務マニュアルを整備し、新人研修プログラム及び研修読本とともに、「世話人研修マニュアル」として配付している。以前は住みこみ世話人が勤務していたが、現在は日替わりで通いの非常勤世話人が勤務している。住みこみから通いの世話人への移行も、業務マニュアル整備のきっかけとなった。                  ③全職員が、日々業務日誌に記録し、事務所で保管している。世話人は、業務日誌のみならず口頭でも引き継ぎをしており、職員間での意思疎通のよい職場となっている。                  ④現在の支援体制が確立するまでは、管理者である専務理事や施設長も宿泊勤務をし、現状を把握する機会ともなった。                  ⑤就業規則を作成し職員の勤務条件・勤務内容の要望を受け止めるなど、管理者や施設長は職員の相談にも応じている。職員も非常に協力的である。                  ⑥管理者・施設長自らも外部研修等を積極的に受講している。</p>	<p>①研修後の理解度チェックは、書面で特にはしていない。研修後は個別に理解度を把握するようにしている。                  ②業務に入った職員全員が業務日誌に記録することを通して、今どの程度業務ができて課題は何かと職員自らが気づく力を高めていきたいと考えている。</p>
<p>※その他、ボランティア・実習生の受け入れ体制整備など、職員の資質向上の促進に関する取り組みについての特記事項 (対応項目：「自己評価・第三者評価項目」6-(25))</p>	<p>①個々の利用者の余暇活動等のために、ボランティア等を積極的に受け入れたいと思っている。                  ②現在は、中区ボランティア協会から、月2回2名のボランティアが交代で日曜日に囲碁ボランティアに来てもらっているだけだが、手芸をしたいと望む利用者のためにボランティアを探している。</p>	<p>①実習生の受け入れはまだしていないが、法人の他施設で受け入れているので今後受け入れたいと考えている。その際は施設長が受け入れ責任者となって対応するプログラム準備し実施する予定である。                  ②ボランティアや実習生の受け入れマニュアルは作成していない。地域資源を育てる面から実習生の受け入れは大切であり、マニュアルなど必要な整備を今後の課題と捉えている。</p>

評価対象領域 7. 日常生活支援

項目	ホームが努力、工夫している取り組みについて確認したこと	ホームが課題にしていること及びその改善に向けたホームとしての取り組みについて確認したこと
<p><u>健康管理・服薬支援、自由時間の支援や就労（一般就労・福祉的就労）への支援、家族とのホームとの関係づくりについて</u>                      （対応項目：「自己評価・第三者評価項目」7-(31) (32) (36) (37) (38) (39)）</p>	<p>（健康管理・服薬支援）</p> <p>①毎朝、体温・血圧・脈拍・体重・健康状態のメディカルチェックを実施し、チェック表に記録・保管している。異常があれば、施設長が再度確認して、必要があれば利用者の掛り付け医に相談し受診する等している。通院に同行する場合もある。</p> <p>②メディカルチェック時以外にも、利用者の体調の変化を気をつけるようにしている。利用者が職員に遠慮なく話せる雰囲気を作るように努力している。</p> <p>③服薬を自己管理している利用者は3名、他は要支援者。薬は鍵のかかる事務所のロッカーで、利用者別、日にち別に小分けして管理している。職員が薬を利用者別に日付毎にセッティングして準備、世話人が服薬の確認を行い、誤薬等の事故のないようにしている。</p> <p>④利用者の不穏時の服薬については、施設長からの指示で世話人が対応している。</p> <p>⑤利用者が外出先でトラブルにまきこまれたときの、対応体制は特には設けてはいない。24時間対応する支援体制の中で対応している。</p>	
	<p>（自由時間・就労支援）</p> <p>①日中の活動先は、デイサービス1名、特例子会社就労1名、就労継続B型施設7名となっている。就労を希望する人にも情報を提供する等できるだけ支援をしている。</p> <p>②自由時間はできるだけ利用者個々の希望に沿って支援をし、趣味や技能を活かせるように配慮</p>	

	<p>している。ボランティアによる囲碁、新横浜ラポールでのフットサル、散歩やDVD鑑賞、買い物同行等をしている。絵画の得意な人が描いたカットを法人のパンフレットの表紙等に利用している。</p> <p>③利用者が必要に応じて移動支援やヘルパー同行を利用できるよう支援をしている。</p> <p>④昨年度は、利用者全員を対象に日帰り温泉に出かけ、楽しむと同時にそのような経験の少ない利用者に、入浴方法の助言や支援をした。</p> <p>⑤食材は宅配を利用しているので、希望を入れるのはむずかしいが、誕生日のケーキ等、特別な機会には利用者の希望を聞いている。</p>	
	<p>(ホームと家族との関係)</p> <p>①路上生活をしていた障害者のグループホームであることから、現在家族と関係が持っている利用者は少数である。家族との関係が深い利用者2名については、3か月に1回連絡を入れるなど、常に相互に連絡を取り合っている。</p> <p>②正月やお盆に帰省する利用者(9名中3名)については、事前に家族に確認を取った後に実施している。</p> <p>③利用者9名全員が県内出身である。</p> <p>④ハローワークを利用するなど求職活動の支援を行っている利用者はいない。</p>	
<p>※その他、<u>食事や入浴、排せつ介助、整容支援、安眠支援、新聞・テレビや嗜好品の支援、利用者の行動障害への対応</u>など、日常生活支援に関する取り組みについての特記事項</p> <p>(対応項目:「自己評価・第三者評価項目」7-(26)(27)(28)(29)(30)(33)(</p>	<p>①トイレと洗面台は1～3階の各階にあり、浴室も1、2階にあるので、利用する時間帯が重ならず各自使用している。中には、行動障害により、手洗いを何時間もしたり、トイレにゴミを捨てたりする利用者もあり、他の利用者からの苦情もあるが、職員が両方の言い分を受け止めた上で注意を喚起し、お互いの障害への理解を求</p>	<p>①利用者の自尊心に配慮しながら、居室内を清潔に保つことや靴の臭いなどについて、促すことが難しい。現状の支援は、声掛けするに留まっている。</p> <p>②ホームでの生活について、年間テーマを決め、利用者、職員で努力している。昨年は「きれいに暮らそう」と決め、身体の清潔、居室の片づけ、清掃等に皆で努めた。</p>

<p>34) (35)</p>	<p>めている。昨年度の生活テーマは「きれいに暮らそう」で、居室の清掃等一定の効果は得られた。</p> <p>②トイレや浴室のドアに利用者に分かりやすく、「空いています」「入浴中です」等のカードをかける等、利用者が共同生活を営みやすいよう工夫している。</p> <p>③風呂場の入口に「お風呂に入ろうからだのあらい方」を貼り、重点的に洗う身体の部位を絵で示すなど工夫している。</p> <p>④シーツの取り換えは声かけして支援をしている。</p> <p>⑤新聞は、スポーツ紙を購読している利用者が1名いる。</p> <p>⑥アルコール依存症者がいるので、飲酒は室内では禁止としている。</p> <p>⑦テレビは8名が居室に持っている</p> <p>⑧食材の宅配業者を利用しているので、その標準献立で対応している。利用者と一緒に献立を作るなどはしていない。しかし、利用者によっては食べられない物があったり、また利用者が好まない調理だったりする場合もあるので、その際は臨機応変に工夫している。</p> <p>⑨脱衣室には、暖房器具、扇風機や空調などは無い。建物が鉄筋コンクリート造りなので、特に不自由した事は無い。</p> <p>⑩精神疾患を併せ持つ利用者が数名いるが、自傷、他害、物損などの危険な行為のある利用者はいない。</p>	<p>今年度のテーマは「なかよく暮らそう」を掲げ、お互い声掛けなどしている。</p>
-----------------	--	--

その他特記事項：第三者評価機関として特に、今後、ホームに課題として取り組みを期待したい事項  
 (※特記する事項がない場合は無記入)

関連領域 (1～7を 記載)	第三者評価機関からのコメント	
4	取り組みを期待 したい事項	地域自治会と、具体的な関係づくりができる事を期待します。
	理由	繁華街にあって、地域の自治会長にお会いできるよう努力されている事を評価します。さらに、地元根ざしたグループホームになる事を期待しています。
6	取り組みを期待 したい事項	更なるボランティアや実習生の受け入れを期待します。
	理由	現在、囲碁ボランティアを受け入れ利用者に余暇の機会を提供し、生活を広げる支援をされている事を評価します。他の利用者への機会提供や、ボランティアや実習生を通じた福祉の啓蒙、地域作りへの更なる努力を期待します。
7	取り組みを期待 したい事項	利用者と一緒に献立を作るなど、利用者が主体的に関わる場面の工夫をさらに期待します。
	理由	食材の宅配業者を利用している制約上、なかなか献立の工夫は難しいと察します。しかし、各々の利用者が主体的に関わり、また他の利用者の好きなをお互いが受入れる貴重な機会を提供できます。可能な範囲で工夫される事を期待します。



第三者評価機関コメント 利用者調査の結果

項目	コメント
<p>利用者調査で確認できたこと                      (※次の調査方法のうち該当するものに○印を記入)</p> <p>①本人ヒアリング調査                      ②家族ヒアリング調査                      ③本人への観察調査</p>	<p>◇ヒアリング対象者 <u>2名</u></p> <p>◇ヒアリングの方法                      ヒアリングは男2名の利用者で、居室及び食堂で実施した。調査員の問いかけに対し、ホームでの生活の様子を話してくれた。</p> <p>◇ヒアリングで確認できたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○平日の日中はパンや弁当を作る工房（作業所）で作業をしている。</li> <li>○スタッフは丁寧に話す。よく話しかける人もいる。</li> <li>○スタッフには、色々話しやすい。</li> <li>○スタッフは部屋に来るとノックして声をかけてくれる。朝、起こしてもらっている。</li> <li>○食事は肉が好きなので、合うときと合わないときがある。材料宅配なので、メニューは希望できないが調味料など調節できる。量は大体よい。あれば、おかわりもできる。</li> <li>○食事はおいしい。</li> <li>○清掃や弁当屋、駄菓子屋等で就労することを目標にしている。スタッフは希望を聞いてくれる。</li> <li>○アパートを借りて一人で生活するのを目標に頑張っている。</li> <li>○お金は自分で管理していて、小遣い帳もつけている。日記を書く日もある。</li> <li>○相談はスタッフ以外では親しい利用者に話す。</li> <li>○スタッフは具合が悪い時すぐ対応してくれる。一度救急で病院に行った。</li> <li>○幻覚がある時も、スタッフは理解してくれ親切に対応してくれる。</li> <li>○好きなとき外出できている。根岸公園まで散歩に行ったりする。</li> <li>○ホームで楽しいのは、囲碁ボランティアと囲碁をしているとき。この頃勝てるようになった。ホーム内では囲碁をやれる人がいなくて残念だ。</li> <li>○困るのはメンバーとトラブルになって怒っちゃったりすること。</li> <li>○これから英語を勉強して英語で日記を書きたい。</li> <li>○スタッフは、利用者一人一人の事を大切に思ってくれている。</li> </ul>

## ※「評価（調査）報告書」必須添付資料

### 評価後（評価結果を受け取った後）のグループホーム・ケアホームからのコメント

#### コメント

評価機関からの丁寧な聞き取りにより、当グループホームの実態をしっかりと見ていただきました。利用者と職員との信頼関係など、グループホームの記録や文書からは見えにくい部分があると思いますが、その点についても丁寧にひろっていただいたと思います。

一般的なグループホームと違う成り立ちであるため、さまざまな苦勞がありました。正面からきちんと評価をしていただいたことに感謝しています。

「利用者にとって何が必要か」を常に問いかけながら、事業を推進してきました。その基本的姿勢を崩さずすすめていいのだと評価していただいたと思っています。いただいた今後の取り組みの課題をクリアし、さらに充実した支援ができるよう、職員一丸となって取り組んでいきます。